

# 社説

## WUB世界大会

### つながりをチャンス拡大に

国内外の県系の事業者らが集まったWUB(ワールド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)世界大会が大阪市で始まった。九回目を迎えた今大会には、十三万国の十六支部から百三十人が参加している。相互交流を深めながら、事業拡大の可能性を探るのが大会の狙いだ。徐々にではあるものの、ビジネスを通じた結び付きは、実をつけつつある。いっそうの充実・拡大に期待したい。

WUBは、世界十七万国に二十一の支部があり、四百人余の会員がいる。沖縄からの移民は一八九九年から一九四一年までに七万二千人に上る。全国の移民の一割を超えるほどだ。戦後もブラジルやペルーなどへの移民が再開され、現在は約三十四万人の県系人が海外にいますといわれています。日系人の実に13・6%を占める。

こうした県系人のネットワークを強めようと世界のウチナンチュ大会が開かれた。文化・親善交流は盛んに行われているが、WUBは、このネットワークを経済分野に生かそうという組織だ。

世界に広がる華僑はよく知られている。私たちは県系人のつながりを華僑になぞらえて「琉僑」と付けてきた。琉僑のネットワークを有効に活用し、華僑に匹敵するビジネス網を築き、ビジネスチャンスをつくる。WUBの狙いもまさにそこにある。お互いの経済発展に役立てるのには意義深いことだ。

WUBを通じた活動は、少しずつではあるものの、実をつけつつある。

アルゼンチンではWUBのロゴが入ったワインが販売されたり、米・ロサンゼルスでは沖縄の食材を扱った認定ショップが開店した。一気にとはいかないかもしれないが、ビジネスの枠が広がっていった。私たちが県人にとって、国への依存や基地経済から脱却し、自立できるほどの経済発展ができるようにするのは目標だ。そのためには、WUBのネットワークは展望を開く一つのきっかけになる。

海外の県系人にとっても、県系事業との提携は外貨獲得のチャンスになりうるだろう。開会式で、県庁守将会長はWUBネットワークが沖縄を母として成長し、これからは大きな県人社会を抱える南米を中心に、さらに発展するを期待している」と述べた。三輪和夫大阪府副知事は「WUBが世界と日本をつなぐ懸け橋になるものと確信する」と激励した。

母県とのつながりだけでビジネスは成り立たないだろう。しかし、母県とのつながりは生かした懸け橋をより強めながら、ビジネスチャンスにもつなげたい。

# 活発にビジネス交流

## WUB IT、健康など紹介

(2005/4/8(金))

【大阪市で高江洲洋子(主)】世界十三万国から県系の事業者らが集う第九回WUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネス・アソシエーション)世界大会関西二〇〇五(WUBインターナシ

onal主催、WUB関西(主)は七日午後、大阪市のスイスホテル南海大阪で十三社が事業内容を紹介するビジネス交流を実施した。各社のブラスは「ロサンゼルスの方が

米を原料に、白麴を使った点が特徴だ。泡は競合しない形で、イ、南米に紹介し、意を旨指したい」と意見を述べた。

同日夕方、会長交代が開かれ、WUBのタイナショナルの呉将会長が退任し、Wブラジルの与那嶺真が新会長に就任した。約三百五十人開かれた。